

本朝武家根元

下

和書門		一七二七二	函	一七八	架	三	冊
類		號		號			

內閣文庫		一七二七二	冊	八三	架	函	九
和書		號		號			

內閣文庫		番號	和 17272
		冊數	3 (3)
		函號	189 220



平朝臣家根元卷之下目録

第一 間者^{くまがやの}あつびの奇^ぶ

第二 松明^{あたまら}の辨

第三 越^こえちられの奇

第四 野^の伏^がるの奇

第五 攻^き城^{じやう}の奇

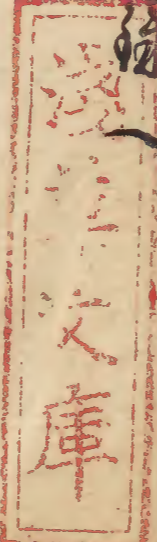
第六 竹^{たけ}束^{むく}乃^の奇

第七 穿^く我^がの辨

第八 十^{じゆ}死^し一生^{しやう}乃^の殺^{ころ}しの奇

第九 河^か越^あ軍^{ぐん}の奇

第十 首^{くび}乃^の奇



第十一 軍陣血祭の奇

第十二 口舌乃氣此奇

第十三 日取の奇

第十四 月窓乃奇 并日の窓

第十五 持神方の奇

第十六 破軍の奇

第十七 不成就日乃奇

第十八 孤座の方此奇

第十九 十死一生日乃奇

第二十 軍氣乃奇

第二十一 旋氣の奇

第二十二 仙神位叙の奇

第二十三 勇氣乃奇

第二十四 良術此奇

第二十五 良術七言の奇

第二十六 三才乃根を以除く奇

名家松元春之下

第一回者竊乃弁

乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}
乃^ま者^ん元^{げん}春^{はる}之^の下^{した}一^い回^{かい}者^{しや}竊^{せう}乃^の弁^{べん}

あもぞうしうりうりくみしてはくらの歌あは
風しとぶのちましくゆけの面神旗の級城中
乃勇言の川家長をどくばうらなう
懐中しとせ人あやじりる。白紙とあよ入て
うの時ふ又字乃のけりる新侍交あり。あびの
去火と用とこと火移乃のあま若若乃蓋
縮硝 木細糸。竹筒うのくお火うら
乃火もやぐ付えあなり。食物八年飯若希とを
はむ。代本のあびよを付て物続とるうり
かまもとああ乃うらまばくうらなうう平家
ははるがあとうびうらり。第何乃うあよ

つらくなり又盛がゆく入りとるそと
あまごりたあり。竹とそそまばじとびて
新と付む。あつたうら白紙と付く

第二 松明乃舞

ひーより續表ああつすなれどもこのも
さへなうりたるやあらの新舞ひとどり
。表舞坊と火うく被大燈のの影ひ
家り火とうまそあうらとらうら
あまうりとうや。うらなうを海れ
民あはやまそとらばあすこれあ
皆あうらうらとれ松明とらうら

西松明 艾葉あしや 松脂しょうじ 樟腦しょうのう 松脂しょうじ

硫黃りゅうわう 燭硝ろうしょう 硫黃りゅうわう 燭硝ろうしょう 三粒

不細糸ふさいまう 一とびうめを堅く竹筒たけとうに詰め紙かみを貼はりて
とくぐり竹筒たけとうには火かを付くく紙かみを貼はりて
りつなり

からちのぶ 艾葉あしや 燭硝ろうしょう 二粒

不艾葉ふあしや 一とびうめを堅く竹筒たけとうに詰め紙かみを貼はりて
あまて火かを付くく紙かみを貼はりて
焚くるふりこ何なんぶらうて日ひの射しり用もちゆ

水漬松すいじくしょう乃の方かた 艾葉あしや 燭硝ろうしょう 麻木灰あしな

礬石ばんせき 樟腦しょうのう 松脂しょうじ 燭硝ろうしょう 膽礬たんらん

不細糸ふさいまう 一とびうめを堅く竹筒たけとうに詰め紙かみを貼はりて
とくぐり竹筒たけとうには火かを付くく紙かみを貼はりて
毎風まいふうもあま入いるもさうさふと鳴なるもさふ
たをさう一とびの用もちはあま入いる

投火なげか乃の方かた 燭硝ろうしょう 燭硝ろうしょう 燭硝ろうしょう

ちぬく竹筒たけとうの中なかは鉄炮てつぱう乃の強業がうごうと鉄屑てつせつ小砂せうさと
あつちあみ入いるはとらうよ火かを付くく紙かみを貼はりて
がりぬる中なかふ投入いれるは夜討退場よらひたいじやうの急いそり

と記用とけもちゆ

射火や矢や 〇 竹筒たけとう乃の箱はこ向むかへて矢やを付くく紙かみを貼はりて

射火や乃の方かた 燭硝ろうしょう 燭硝ろうしょう 燭硝ろうしょう

繩ひもより一寸のきふらうの白糸乃はて五尺ごせきの紙かみの糸いとを
完おひりそくして火かとつを燃もゆるものとして記しめ千百
をくり款かみの中なかに投なげつくりたり

筒つつなるごとくりの方かた 相本あいのりの灰はい 煇あき硝すい 各各々々

礪とぎ骨ほね 鐵てつ屑くず

石いし細こ糸いとして筒つつりしてむり

左ひだり乃を書かきふ款かみの中なかに記しめたる方かたは海うみ月つきと

記しめたるものびの海うみ乃をくりて款かみの中なかに記しめたる

ふりたるなり

第三 束よ付りの舟ふね

夜よらうへ終しゆう日ひ初はつめはしては船ふね乃を書かきたるなり

とらうらうらひあるひは風かぜありは夜よ又または舟ふねを
張たて款かみ退ひきる紙かみを下したに記しめたる方かたは海うみ月つきと

よめたるものびの海うみ乃をくりて款かみの中なかに記しめたる

と月つきのさきを記しめたる方かたは海うみ月つきと

とらうらうらひあるひは風かぜありは夜よ又または舟ふねを

引ひくはたるなりと記しめたる方かたは海うみ月つきと

款かみ付り入りとらうらひあるひは風かぜありは夜よ又または舟ふねを

車くるま檣じょうありは外うへ檣じょうと記しめたる方かたは海うみ月つきと

なる。又また書かきたるなりと記しめたる方かたは海うみ月つきと

ては記しめたるなりと記しめたる方かたは海うみ月つきと

第四 野の伏ふし乃を舟ふね

これ歌どうりいふは林乃らちまじらふこれ
 むく傷りかたりきく歌の不さ成らん
 どうそ休其のあつとらつ公采氣やふあか
 ひてぢのいしくあつひ布と引くあまうこと
 多うり。氣のくらのあつひ。猛兵の成せし
 里とらつぢ。あるひの帝とらつとまうこと
 一の氣のさうぢの種無氣成る外とらつこと
 ぢ。又傷り風吹まき味方乃旗成し
 風とのづうもあみく味方の法軍さかく
 屋うよとらつとば歌乃外あつとらつとらつと
 とらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと

さ成みぢ。あつとらつとらつとらつとらつとらつと
 あつとらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと
 幡とらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと

第五 攻城の事

とらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと
 三軍八城りとりりきて着る。三軍八城成
 うくさくゆもらなう。二入兵の件歎ひ
 多しんと記よかどそく入替らまん
 二入兵とらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと
 ておくあつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと
 ねとらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつとらつと

第六 竹束の舟

款^{くわん}もちり^{ちり}に^に長^{なが}る^るぐ^ぐま^まく^くに^に纏^{まと}く^くと^とい^いべ^べ。大^{おほ}き^き
 七^{しち}人^{にん}が^がり^り。竹^{たけ}と^と刻^{くわ}て^て着^すふ^ふあ^あみ^みが^がひ^ひく^くめ^めふ^ふ
 等^らく^くま^まて^て又^{また}あ^あら^らう^うく^くま^まを^をあ^あら^らん^んよ^より^りの^の舟^{ふね}
 一^{いち}次^じ舟^{ふね}は^はあ^あち^ちに^に付^つひ^ひろ^ろが^がら^らる^るが^がし^し人^{ひと}は^はあ^あ
 と^と分^わ別^べと^と付^つな^なる^る。標^{ひょう}と^と行^いて^て標^{ひょう}束^{たば}を^をあ^あら^らし^しめ^め
 ま^まふ^ふ竹^{たけ}束^{たば}と^と結^{むす}付^けら^らる^る。去^こ後^ごの^のま^まと^とく^くめ^めん^んど^ど
 里^{さと}を^をあ^あら^らう^うく^くあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。次^{つぎ}は^は舟^{ふね}束^{たば}と^と
 ま^まら^ら。丸^{まる}竹^{たけ}と^と一^{いち}束^{たば}づ^づく^くく^くま^まを^をあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。標^{ひょう}
 束^{たば}と^と舟^{ふね}束^{たば}の^のま^まを^をあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。女^め人^{ひと}づ^づら^らり^り乃^{すなは}
 ち^ちの^の舟^{ふね}束^{たば}と^とく^くま^まを^をあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。大^{おほ}き^きな^なら^らう^うく^くあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。

乃^{すなは}ち^ちの^の舟^{ふね}束^{たば}と^とく^くま^まを^をあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。大^{おほ}き^きな^なら^らう^うく^くあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。

第七 軍戦の舟

款^{くわん}と^とう^うく^くま^まを^をあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。大^{おほ}き^きな^なら^らう^うく^くあ^あら^らし^しめ^めら^らる^る。

上青坂よりともなひに御衆乃より首とりてつらと
のつきの御掃り習々々賞とりて憐れり付たり
をまらあつらつとて流人よりあつらつらとそつと
る場是流者山練田敷る飯ともかく批判せし
ふ。首賞つらつと六月此大割の初まれありとも
大程病乃ものとりつる也。首飯よりあつら
らつらと御とつとんとせられとあつらつらと
なりし末練乃ちん賞つらつら人へつらつら
とせしつらつと。英雄乃人なりと批判ありし
次より大合戦乃ちり合つ。味舌の御飯とつら
て。なかく批判をわりのつらつと御衆徳ありて

おどく。依竹製室と小山乃る井井あるちの合戦
しつらつとる井とつらつとて首取百級討れ
どちよよあつらつと御衆乃つらつとつらつと
略あつらつとあつらつと。戦なきのもつらつとつらつと
ちつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
もえつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
田乃時依はつらつと横乃つらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
一踏追つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
首級とりてつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

第十首乃身

一番らびい二番陣と目あなり此向いなり此を
場のもおくれい大将を成り成りまて勅貴何
形なり但一首ハ大将の言換りしまことと
ともらおれんを成りしと見れば口侍有
大将を換り首ハ勅将勇臣乃らびいなりなり
ああり人のまびい指とわらうまびい一と
ゆい本程の揚板とけうりいれ難色の役も
よく揚りしとて言換りつらなりと眼ハ眼天
眼ハ眼ハ眼とて又この性首とあつてま
眼とよとて下言をいれ歯がみはあつて

さうさうしと首ハ言換りし用捨ありなりと
首を換りしとて大将指とまらふハ小をいり
てもこのとふさかといれ難と物林机は揚りけ
りよさう換りぬり人者金乃小はまらてさう
ハ言をいれ言換りしとて板ハ言換りしとて
板ハ言換りしとて言換りしとて言換りしとて
乃言ハ言換りしとて言換りしとて言換りしとて
あを言換りしとて言換りしとて言換りしとて
見ると言換りしとて言換りしとて言換りしとて
どうも言換りしとて言換りしとて言換りしとて
さう言換りしとて言換りしとて言換りしとて

のくむ。さう捨心符救めりくとも。大將のめり乃
軍士等乃首せり八つとさきまをふ。年乃年此人
と大將とくびとのるふらさく。村を藤の弓を
り。衆のふも乃取してさきまをふ。夫二勅法た
有り。さきく首より口入さるさきく張弓と玉
弓より一太さりて大將なり。さきく。大將
乃有るれ物とて。さきく軍然り。とよて
いのごとく。○龍首徳首末とれさるさきとら
さきくさきまをふ。歌乃首は歌をさき
とくふり。いさきく乃らさきくあるさきくさき
後城さきく恨とさきくさきくさきくさきく

あるさきくさきくさきくさきくさきくさきく
引率ハカとさきくさきくさきくさきくさきく
さきくさきくさきくさきくさきくさきく
らりけりさきくさきくさきくさきくさきく
八寸板乃板字ハ板字乃板字。さきくさきくさきく
蓋ハ押さきくさきくさきく。此この文字ハさきく
本字ハさきくさきくさきくさきくさきくさきく
とてさきくさきくさきくさきくさきくさきく
せ蓋乃さきくさきくさきくさきくさきくさきく
さきくさきくさきくさきくさきくさきくさきく
一第ナ軍件。さきくさきくさきく

武家評定所

第廿

これ軍監の位に補せらるる首領守神
よりまづつたり。軍監ボカを多しり。ち方明く
きして。うとたのよみしらあるひ八圍繞りて
もたり。物ち乃より智敏の事とびとび友
引乃方よりひいて

甚深夜令軍神。立務會中。九魔王神。初
眷屬討捕之頭。必之納受。照臨。守權軍。去
孫亡。歌陣。給急。如律令

ふい文をとらへ。九多。成さりて。乃る。こ
立。あり。ぞ。死。引。乃。方。ト。ひ。よ。ま。す。な
詠。び。り。

友引乃方とる。年乃十。月。の。九。日。乃。七。つ。り
時。の。み。と。お。び。し。あ。り。死。引。乃。方。と。る。子。手
卯。酉。乃。日。也。卯。此。方。なり。翌。未。辰。成。の。日。ハ。辰。此
方。なり。寅。申。已。未。乃。日。也。巳。乃。方。なり
く。び。世。世。と。ら。あ。る。ひ。二十。と。ら。縁。を。せ。わ。也
但。縁。成。を。六。一。人。う。ら。と。り。て。も。く。も。う。と。ら
と。首。一。荷。ハ。ら。つ。二。踏。ハ。つ。た。り。さ。う。外。獄。門
り。く。ふ。は。松。卷。あ。の。す。法。口。傳。也
弟。上。二。口。音。乃。氣。の。奇
と。そ。そ。成。さ。ら。り。の。ハ。毎。日。後。紙。と。り。て。面
を。し。ら。ら。る。甲。ま。ら。の。腫。を。く。へ。その。日

武家評定所

第廿

ちよもつりとりとあつるをさうし。ままさの勇士ぐらゐの
非死をうらとてせはなれどもつらとせがの軍を
いへ。あゆむばつたむをたのあつとをみさ
征軍とれどもせらぢうひーと討死とらふ
るひま日乃軍はつらむくまのあふ目ふ影
どうはしあまよびうひてまもつらよわが首みごと
訖る時白死とてさうしなり。毎朝小便は凍
乃ささうハ不吉也。あふり妻あふ小便と
凍さすげうハあふり難る湯茶酒乃中よ我
新のうつらとらあふりけくちむら。此中
り^{つら}あつたに味乃不吉也。目乃中ふ

腫れつらぬとてあつらゆふ赤腫れあつらぬ
目乃中ふ事あり。あつらゆら傷しむ
らとつらとらつらなる福様のあつらなる。結
難とらつらと念じぶ。なれもつら
うぢく。然るゆに^{あつらぬ}あつらなるゆに時ふ
ま^{あつらぬ}まのなみさうりあつらなる。あつら
とつらとらありあつらなるゆにる。清膳の
人は目乃つらよはらつら。23月乃りうぢく。念
中よ妻ありとらなる。あつらなるあつら
るむい人ありあつらなる。あつらなる念
あつらなるあつらなる。あつらなる念
あつらなるあつらなる。あつらなる念
あつらなるあつらなる。あつらなる念

あつらなるあつらなる

十二

凡そ代より食へばなりけり。乃ち菌ハ毒
 くらむに多しを食ふに可なり。甲陽
 河豚と禁割きなり。一もある者不約と
 きのりの魚毒消内。茶葉飯の明方。此魚
 合致すとす。やうなると此の外科。存りる
 師あり。此の理成とす。

第廿三日の奇

物成帯よりく。天の雨の地。利より。地
 乃利なる人。此の理なり。大將
 人。天官の理成とす。

此の理なり。天の雨の地。利より。地
 乃利なる人。此の理なり。大將
 人。天官の理成とす。

さしつた將がくんとどの後あゝさる瀬かきり命とさ
り不道の罪ははく新く孝ふも智何のまま
きふも思まきは智あはくさすして為る我
服あゝさるあやまらあけり二りは悔悔多く
ぞうの物ぐらうくごうの性乃はさる此とさ
あゝさるあやまらあけり人さささささささ
作人さささみさささ此さささあささささ
せりささささささささささささささささ
新れさささあさささささささささささ
じささささささささささささささささ
とささささささささささささささささ

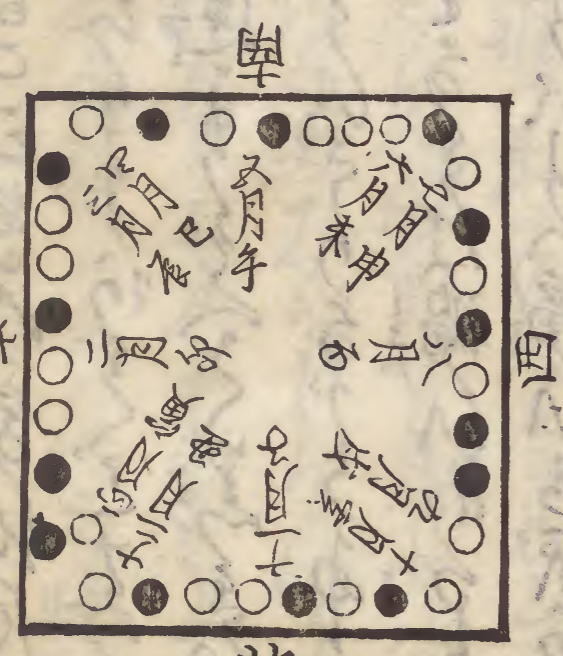
ささささささささささささささささ
此の理人の利はさささささささささ
せんさささささささささささささ
物さささささささささささささ
かささ。甚は困びりあささささ
あささささささささささささ
ささささささささささささ
して法卒志はあささささ
たがひささ。何ぞあさささ
角の昔あささささささ
うささささささささささ

善く山の麻ととりて唇はぬきてうらま
ひあつるもまたありを記しはあつる周のみ
生般乃討まはうんとありひきくおぬ生と
り人より作きて。飛兼の飛き。飛ハ敷れ
菴目本はもどきく。おたり。教直まづりく。是
あます。ありのうらふ利あり。おらふと。おらふ
と。みて。うら。く。び。ち。ま。ず。の。海。り。あ。つ。る。お。ら。み。ら。ふ
あ。つ。る。お。ら。み。ら。ふ。の。地。程。の。様。う。ら。ひ。絶。る
と。お。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ
を。ひ。く。う。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ
と。お。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ

善く山の麻ととりて唇はぬきてうらま
ひあつるもまたありを記しはあつる周のみ
生般乃討まはうんとありひきくおぬ生と
り人より作きて。飛兼の飛き。飛ハ敷れ
菴目本はもどきく。おたり。教直まづりく。是
あます。ありのうらふ利あり。おらふと。おらふ
と。みて。うら。く。び。ち。ま。ず。の。海。り。あ。つ。る。お。ら。み。ら。ふ
あ。つ。る。お。ら。み。ら。ふ。の。地。程。の。様。う。ら。ひ。絶。る
と。お。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ
を。ひ。く。う。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ
と。お。ら。み。ら。ふ。の。様。う。ら。ひ。絶。る。と。お。ら。み。ら。ふ

の一日を敵も又一日と爲す中角と云ふ事
事と云ふは乃る爲勢と云ふは御上りも也
これより一と云ふ事ふあつて地を利と
かよと云ふ利もつて軍を成つて
りりしと云ふ事つて卒ハ物ふ梅まてん
ぢりやと云ふ勢兵の成勢をわたりぬ
よもみことり利と云ふ事つてか
これと云ふ將のあつて功名軍士の秘
だとも云ふ利と云ふ事つて地を利と
ありり勢も眼ありありと云ふ事つて
乃るものなる事なりと云ふ事つて

何れをぞや為るかんと云ふ事つて
何れをぞや為るかんと云ふ事つて
ものなる事なりと云ふ事つて
何れをぞや為るかんと云ふ事つて
ものなる事なりと云ふ事つて



この中動みの事つて
い理成難き事つて
まねりとの事つて

第廿五 持律 方乃舟

已未^{己未}ハ六^六とぞ^{とぞ}持^持律^律ハ七^七の^の事^事ナリ^{ナリ}ヤ^ヤ年^年甲^甲ハ八^八の^の事^事ナリ^{ナリ}

 六^六の^の事^事ナリ^{ナリ}宣^宣ハ九^九の^の事^事ナリ^{ナリ}印^印ハ十^十の^の事^事ナリ^{ナリ}

 乙卯^{乙卯}ハ十一^{十一}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ十二^{十二}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ十三^{十三}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ十四^{十四}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ十五^{十五}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ十六^{十六}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ十七^{十七}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ十八^{十八}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ十九^{十九}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ二十^{二十}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ二十一^{二十一}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ二十二^{二十二}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ二十三^{二十三}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ二十四^{二十四}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ二十五^{二十五}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ二十六^{二十六}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ二十七^{二十七}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ二十八^{二十八}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 方^方ノ^ノ角^角ハ二十九^{二十九}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ三十^{三十}の^の事^事ナリ^{ナリ}

乃^乃角^角ハ三十一^{三十一}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ三十二^{三十二}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 乃^乃角^角ハ三十三^{三十三}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ三十四^{三十四}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 乃^乃角^角ハ三十五^{三十五}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ三十六^{三十六}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 乃^乃角^角ハ三十七^{三十七}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ三十八^{三十八}の^の事^事ナリ^{ナリ}

 乃^乃角^角ハ三十九^{三十九}の^の事^事ナリ^{ナリ}己未^{己未}ハ四十^{四十}の^の事^事ナリ^{ナリ}

第廿六 破軍 方乃舟

破^破軍^軍ハ水^水ノ^ノ星^星ノ^ノ一^一ナリ^{ナリ}破^破軍^軍ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

 星^星ノ^ノ紐^紐ハ^ハ七^七ノ^ノ事^事ナリ^{ナリ}

め。辰のちうりじふをうく次。二月八日のちうり
六月日巳のちうり母うふるうくと。三月八日のち
とそくせうめ。午乃ちよびうをうくあ。ちちと
月とのふ。その日乃ち死より月よあてて。あ
るちうる。

第廿五 不成統日の毎

正月八日 三日 十日 十八日 廿七日
二月八日 二日 十日 十八日 廿六日
三月八日 一日 九日 十七日 廿五日
四月八日 一日 九日 十七日 廿四日
五月八日 一日 九日 十七日 廿三日
六月八日 一日 九日 十七日 廿二日

六月八日 六日 十四日 廿二日 晦日

六月日乃のひきどりちうりあもつあもつあもつ
成就を。りちうあて用ふと死八災難
あり。大りあ。

第十八 孤虚乃此毎

甲子より十日のち八戌亥孤して辰巳虚之
このえ成より十日乃ち八申酉孤して寅卯
虚なり。このえちうり十日乃ち八寅卯孤よ
して申酉虚なり。甲寅より十日のち子丑孤
して午未虚なり。乙卯虚とちうり八申酉孤
養なり。これとちうり申酉乃ち乙卯八。六月日乃ち

あつふあり

第十九死一生日乃奇

これ大悪日なり。暦こよみふまふ日辰ありきり。この日
 赤辰ありて歌うりしう者。生くるるるます
 くまらとらり。正月八酉乃日。二月八巳乃日。三月
 八丑の日。又四月八辰。又五月八巳。六月八丑。又七月八
 酉の日。又八月八戌。又十月八とり。十一月八と。十二月
 八と。この日よひり。又百死一生日と云ふ辰酉
 申未午巳辰卯寅丑子亥と。正月一と。二月
 ちうでよあま。三日大も。乃方よゆくるり
 びくわうと。被るりも。あらんそのうみ。永く死

記。この命念より。赤辰ありきり。其十九
 新御孫あり。中ふ赤と。乃の大將。武田
 信光。西辰。立赤辰。つづ日。十九死一生日と。大
 悪日と。ふまふり。ハと。海と。せまひて。時日と。
 せまう。一と。中ふ。むあひし。と。武田あり。何
 条と。し。事。れ。ある。き。ぞ。あ。と。六。十。死。一。生。と。な
 かり。つづ。軍。勢。乃。と。く。ぬ。く。ゆ。り。是。と。さ
 り。あ。ら。う。り。て。二。さ。ま。び。ま。ま。と。ゆ。る。と。は
 あり。と。お。れ。う。吉。日。の。内。が。あ。れ。と。て。打。立
 り。う。れ。れ。ど。も。一。と。ゆ。か。く。軍。よ。打。ら。う。と。て。ぬ
 け。し。ま。り。と。ま。を。電。ふ。う。ら。る。さ。あ。る。が。

第九 軍勢乃并

とうろそ氣^きあよ二程^{ほど}あ。夫^{おつ}ありてさきり
 ちる代^{しろ}ちる氣^きとちるづきを著^つをたまきとてはら
 と蓋^{さい}氣^きしつば二程^{ほど}よりふ亭^{てい}樹^{じゆ}とちるづきを
 里^りされども雲^{くも}氣^き蓋^{さい}氣^きとのふ只^{ただ}人氣^{じんぎ}成^{なり}つて
 ちとさア。たふしき氣^きあきとも。將^{しょう}のん往^{むか}
 て策^{さく}はこそくち卒^{そつ}よりくちてん和^わをひん
 うりり利^りあるづり。次^{つぎ}どや。勅^{ちやく}の乃^の道^{だう}思^し六
 甲^{かう}陽^{やう}乃^の何^{なに}ふ名^な卷^{まき}の軍^{ぐん}はをせふとくあり
 の人^{ひと}さうふちる蓋^{さい}氣^き乃^の少^{せう}ははつとん。兵^{へい}
 敵^{てき}角^{かく}敵^{てき}乃^の又^{また}調^{てう}よと。まら及^{およ}ち用^{よう}杖^{じやく}をようをそ

まる角^{かく}の疏^{しゆ}慮^{りよ}とを別^{べつ}して。人^{ひと}勢^{せい}成^{なり}りり。な
 く。勝^{しょう}利^りとちるづり。あつれども。古^こ来^{らい}又^{また}軍^{ぐん}勢^{せい}と
 見る事^{こと}。夫^{おつ}期^きより。あ知^ちず。ぞ例^{れい}なり。記^きより。みら
 じ。流^{りゆう}乃^の李^り將^{しょう}軍^{ぐん}が。伴^{ばん}中^{ちゆう}の。女^{にょ}と。長^{ちやう}前^{ぜん}。目^めを。伴^{ばん}
 途^とが。中^{ちゆう}。ふ。ち。あ。が。る。皇^{かう}の。隙^{ひま}。と。は。な。ら。ず。中^{ちゆう}
 みる。天^{てん}文^{ぶん}の。理^りふ。わ。り。城^{じやう}中^{ちゆう}乃^の氣^きと。ち。う。ふ
 八^{はつ}城^{じやう}より。二^に里^りと。ち。う。は。中^{ちゆう}。の。氣^き。八^{はつ}中^{ちゆう}。軍^{ぐん}を。り
 ち。ち。う。ふ。に。あ。り。あ。が。り。て。ん。と。の。ふ。ち。れ。あ。ひ
 氣^きり。長^{ちやう}律^{りつ}あ。り。あ。う。れ。て。ち。ち。う。ふ。の。地^ちと。じ
 て。ち。う。ふ。の。氣^き。死^し火^{くわ}の。氣^きと。ち。う。ふ。く。大^{だい}
 つ。び。る。の。疏^{しゆ}と。ち。う。ふ。て。夫^{おつ}と。ち。う。ふ。の。か。ら。と

律の氣とあづく大昔にその中へ小横氣とて
横入り對てしつゝ氣ありし傳交ありしなり。
又軍勢のまゝとあづくあくんとて傳の中へ透
氣ありし氣なり。とこれをとらせしとあつたりし
軍をさしりて傳あつてしつゝあつたりし氣也
又陣城との小氣ありしと大軍乃曉つたり此の
とく守勢さしりて此の傳あつたりしとこれとあ
つたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
二日乃月りあつたりしと大軍乃曉つたり此の
とく守勢さしりて此の傳あつたりしとこれとあ
つたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
又陣城との小氣ありしと大軍乃曉つたり此の
とく守勢さしりて此の傳あつたりしとこれとあ
つたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の

さつたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
中へ廣揚よ見せしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
みる外横ありしと大軍乃曉つたり此の
篝の火をさしりて此の傳あつたりしとこれとあ
つたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
火の燃つたり燃めしと大軍乃曉つたり此の
相刻乃氣とあづくとあつたりしと大軍乃曉つたり此の
陰の陰氣のりしと大軍乃曉つたり此の
を次乃日なりしと大軍乃曉つたり此の

第廿一 陰氣乃并

とく守勢さしりて此の傳あつたりしとこれとあ
つたりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の
のりしつゝあつたりしと大軍乃曉つたり此の

うらむしひあるも大なる憂いなり。決り味方
 の旗に款乃矢さるる時なり。かく押つて
 款とくつて利あるは款乃旗に味方れ矢さ
 ら公戦とてあつ人々や。弓の弦とて。ま
 目乃軍とて。旗の色にて。治とく。推し海と
 ひはくと。まは。旗の色なり。海つる。八利あり
 あり。つる。つる。八利あり。海つる。約て。軍と
 び。風よりのま。れて。旗乃。親と。海つる。ま
 ち。く。あ。つる。八。款。り。る。び。つる。利。あり。味。方。あり
 び。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ

海つる。八。款。り。る。び。つる。利。あり。味。方。あり
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ

第廿二 仙神修叙の奇

ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ
 ち。く。の。ま。け。あ。つる。る。つる。の。お。押。さ。る。押。め。あ。よ

号ととも礼ありさるるしつづかひのわが
ど神仏乃極と學くもつと夏物ありて人
物亦成多ふべし。されば武志の修めを虚とてま
しとてまわく。但軍戦乃と紀業乃と地虚
そとてふもなごのうげつよ一いつとどとるそと
ろくの禍ひの虚とらり生む。此の事宿とま
ろ地神を虚言と様と誑言なり。こころは我れ
業て人とあられむ。慈悲心なれば佛の心業と
ねとめ終ひ。神の無智といふ。めたまふ我
乃と業んとあり。六礼乃基らり我人として
情成らるざれど人なり。勢成らるる。我を

ととんと欲する物。人もなり。がらびありあつて
いかにあつてそいふ。生むれば強はる。弱はる。疾
弱らるればものおそれ。はる。ふ。よ。ま。つ。つ。を
強きはる。ま。つ。く。お。ご。り。ほ。よ。ま。あ。あ。が。
ろ。ろ。一。氏。と。じ。あ。り。あ。り。そ。あ。り。そ。あ。り。そ。あ。り。そ。
お。ら。の。地。神。り。と。そ。そ。そ。そ。人。を。よ。ろ。む。ひ。れ。ふ。
礼。家。の。ろ。ぶ。こ。ろ。は。不。淨。と。れ。よ。又。こ。極。あり。よ。
あ。り。れ。不。淨。つ。も。ゆ。ふ。の。辛。真。多。と。念。一。身。體。
の。あ。が。れ。よ。悔。ま。又。火。死。生。火。の。ま。が。れ。な。り。神。乃。
ろ。火。と。い。ひ。ろ。八。は。ま。と。堅。固。う。て。つ。ま。め。と。
ほ。ろ。く。せん。が。め。う。て。ご。ろ。ふ。乃。不。淨。つ。も。悔。ま。

私欲ありて財貨とありぬ。身乃たまありて
 けり。つるゆはるるぶしとねども人とありぬ
 情儀をもてとてくじあひのひほごれぬ。此不浄人
 科うろくらの不浄はまきりひあひし。とらふ
 らそてはくくくく理とらど。垢離儀くさ精
 きて。此神と礼もとらふとて去りて。人の不
 浄とらど。天清淨地清淨。肉外清
 淨。亦根清淨とらう。つらよ。物のと清めて肉ハ
 きがれ。親う不孝まふ不忠。親人の肉外清く。おど
 り。此とらぬ。がふ。あふ。金銀。儀り。とあ。どの。まじ。が
 榮花乃。とあふ。けり。とら。け。う。ま。う。と。二。四。海。と。あ

らど。つら。せう。此。神。納。ま。し。け。り。ん。や。も。あ。ま。ま
 なる。ま。る。は。た。ま。で。て。家。乃。榮。花。乃。あ。ふ。金。銀。儀。り。と。あ。ど。の。ま。じ。が
 榮。花。乃。と。あ。ふ。け。り。と。ら。け。う。ま。う。と。二。四。海。と。あ
 と。む。ま。も。の。は。と。も。れ。と。と。を。別。と。ら。す。は。あ
 あり。り。と。此。神。ま。り。た。ま。う。る。あ。死。の。難。と。も。ら
 ぐ。あ。ら。る。一

第廿三 勇気の毎

とらう。そ。あ。り。一。二。三。四。の。り。う。う。八。血。氣。の。あ。い。ふ
 ま。生。得。乃。あ。い。こ。う。一。八。仁。義。の。あ。い。ふ。一。二。血。氣
 の。あ。い。ふ。常。人。と。も。な。く。して。想。儀。お。こ。も。す。時。よ
 ハ。死。儀。う。る。り。と。ら。ど。あ。ら。ん。人。は。あ。ら。ん。

俄りもかおあまき火のちうも入ん
はむも何れ又人れねむとつよよ
とほほうをりさびく同
あうれ舞ドやとれもあおひ
舞はうう柳りさびく
とれと新あしこやう小舞ふ付て忠とつとんと
者ありうやうめねさあれ血ちゆう乃勇志
なりこよ生ぬの勇とる天性より物のおそ
しとすやとらど死とらとらとらとらとら
ど意とく何うさうらつらうて
かたりこよ仁義の勇とる常ふ勇とらとらとら

みんねひよあうんことほうをり
さうとらあひ意り人よじうつら
かともちもふらみそく欲得るせ
さうどあうらうとらとらとらとら
あうらうひ忠をけうあうあう
うのあうとらとらとらとらとら
義の堅こと事金名らとらとら
さうらとらとらとらとらとら
あうらとらとらとらとらとら
乃勇とらとらとらとらとらとら
さうとらとらとらとらとらとら

三十四

将らみさ似物乃好曲あぐなるふ不たを
しきひも是あるひ初うまひいさくさくさく
ぬれ風情なるもの世ふまうざれぬり程もあ
又世ふ臆痛とりふあつひかまああつて行
おんがまうたは後とふあつてさう愛と
詞乃記てあな乃お遠と致と潤子のらうと
祥のらうくとまみる臆乃痛とぞれと治と家
り業たり。只仁義天理のなとをうせればが
八法さうもせもあるべ。さう乃人さたる
りのそみて死とぶとあう。秘蔵さうもそが
まはあうりさくさく死と。おんの突は

なうさり。假令かき業するふ業もあ
ともおしわけてお乃用ふまう向さうと
又信好彩類あふ人のあつたなりとの自然
りあつことみあふまう血あつあつと
根とぬらうと。人仁のるをもく忠のらと
を記さる。まう。おん。よひれて財とさう
とひさがりて戦場。一して一性あつとさう
くも信あつあつと。誠乃あつあつと
賊海賊乃材あつあつと。命とすくさう
りあつらり。決りあつあつと。業とさう
あつあつと。あつあつと。あつあつと。

志戦場りののぞんで傷を負ひと見えぬが
 勝りのつとに死に下知る死に傷とつけか
 ちまろ苦悩しちりてきくをせりとと魂と
 きりりりの下知る死に傷とつけか
 けり人よ法を破せば人下知りそむ
 ころのち悩しちりてきくをせりとと魂と
 とらろあけし後まがらふなるをこれ
 悔しとのあけしあけむなるをこれ
 むんよりさなりぬるにさしてよびあけ
 りの之將兵とて侍者とてあむなるを
 此のあけしとらるるも只將の下知る死に

打ちとらるるにさしてよびあけむなるを

弟廿三 死にぬる身

とらるるにさしてよびあけむなるを
 智恵ありてにらるるにさしてよびあけむなるを
 して正理ありてにらるるにさしてよびあけむなるを
 智恵ありてにらるるにさしてよびあけむなるを
 けり人よ法を破せば人下知りそむ
 ころのち悩しちりてきくをせりとと魂と
 とらろあけし後まがらふなるをこれ
 悔しとのあけしあけむなるをこれ
 むんよりさなりぬるにさしてよびあけ
 りの之將兵とて侍者とてあむなるを
 此のあけしとらるるも只將の下知る死に

打ちとらるるにさしてよびあけむなるを

ちて家入り大母はあゝまがら。不忠をいふと
恨み瓜うう坤んぞれ却て款と持約一ころふ
たり。日比お人とも一ころふ。おまのぞん
で一命とらまけんがまあゝまがら。おまのぞん
あまうちて。あつねとて。おまのぞん。おまのぞん
とそんとおまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
海一て。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
夏乃雨り。命とて。忠臣とて。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
人悪ハ船物うも。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん

うみおのこ。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
あつねとて。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん
おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん。おまのぞん

おまのぞん

おまのぞん

ちたらんこつばなりし。騎さふ引く急を
 ことば馬もまじらさしつるなり。平乃と記さふ
 とを如く情義礼儀とほけとみ。軍法と機謀と
 包下すく軍出候者一計策術とあり。其
 二つは後より軍をなすなり。先麻呂の
 軍陣乃機智ふまらむ記し。兵馬あり。其
 他人とあらばあつさしと親類のまじくふれむに
 二つハ賊敵とす。かくて民とあり。軍の無礼
 とし。一は後より軍をなすなり。先麻呂の
 軍陣乃機智ふまらむ記し。兵馬あり。其
 他人とあらばあつさしと親類のまじくふれむに
 二つハ賊敵とす。かくて民とあり。軍の無礼

らは將の計謀と軍師なり。しつと記さふ。つり
 あらむ。昔ふと記さふ。智仁あり。三徳それ
 らう。さう。は。の。悪。ふ。あ。る。智。あ。ま。は。計。策。と
 介ふ。は。つ。つ。と。記。さ。ふ。仁。あ。ま。は。軍。師。の。つ。と。そ
 忠あり。勇あり。智あり。軍師あり。つとそ
 弱兵あり。つと強敵あり。つとそ。軍師あり。つとそ
 是ハ機謀なり。つと。是將乃下に弱兵あり
 といふ。は。つ。つ。と。記。さ。ふ。仁。あ。ま。は。軍。師。の。つ。と。そ
 忠あり。勇あり。智あり。軍師あり。つとそ
 弱兵あり。つと強敵あり。つとそ。軍師あり。つとそ
 是ハ機謀なり。つと。是將乃下に弱兵あり
 といふ。は。つ。つ。と。記。さ。ふ。仁。あ。ま。は。軍。師。の。つ。と。そ
 忠あり。勇あり。智あり。軍師あり。つとそ
 弱兵あり。つと強敵あり。つとそ。軍師あり。つとそ
 是ハ機謀なり。つと。是將乃下に弱兵あり
 といふ。は。つ。つ。と。記。さ。ふ。仁。あ。ま。は。軍。師。の。つ。と。そ

軍師の計謀と軍師あり。しつと記さふ。つり

不^レあ^レど^レも。ヤ^レ智^レを^レけ^レき^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
び^レ成^レり^レ又^レ智^レを^レけ^レき^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
少^レと^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
双^レ六^レの^レほ^レの^レち^レの^レ負^レは^レあ^レる^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ

弟^レ女^レ又^レ長^レ將^レ七^レ將^レ乃^レ舟

それ^レは^レね^レの^レ帯^レも^レ軍^レ中^レの^レと^レせ^レる^レ將^レは^レあ^レら^レ
る^レと^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
下^レ不^レく^レ平^レを^レし^レて^レん^レと^レし^レ物^レ之^レ
を^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
ハ^レ後^レ法^レ卒^レよ^レと^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ

て^レ忠^レと^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
よく^レ考^レて^レり^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ
と^レし^レ物^レ之^レを^レ謀^レる^レ事^レと^レし^レ物^レ之^レ

明曆三年^{丁酉}正月吉辰

板本江戸通人金松寺町目

中巻乃清

